

令和5年度教育行政評価シート（令和4年度事業自己評価）

NO. 15-①

主要事業名	社会教育の推進						作成日	R5.5.15
							担当課名	社会教育課
							担当者名	金島 慎太郎
事業の性質	法定受託 事務		自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	○	市民サービス	管理経費
							建設事業	その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ			②第四次鹿嶋市総合計画における位置づけ		
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上	基本目標	1	人生100年をあざやかに「鹿嶋」で生きる
体系項目	(1)	社会教育の充実と多様で主体的な生涯学習活動の推進	基本政策	2	共に学び成長しながら生きる
個別施策	②	能力や経験が生かされる仕組みづくり	基本施策	2	豊かな鹿嶋文化を共に創り育む
根拠法令等	鹿嶋市社会教育推進計画				

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	社会教育行政が担う成人教育，青少年教育，家庭教育支援，学校教育支援等を通して，地域課題，人材の育成や地域の活力向上に答えられるよう社会教育の推進が求められている。
目的（事業の目指すところ）	活動を通じて，地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに，地域のつながり・絆を強化し，生涯学習活動の充実を図り，更には地域づくりを推進していく。
目的達成のための手順	地域の方がボランティアとして，学校運営や教育活動を支援する学校支援ボランティア制度や市職員が自治会やサークルに出向き，講座や教室を実施する出前講座等，地域住民が相互に学び合う機会を創出していく。
国・県・他自治体の動向，又は市民，その他の意見等	中央教育審議会答申（平成30年12月）では「人口減少や，コミュニティの衰退を受けて，住民参画による地域づくりがこれまで以上に求められる中，社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりの重要性は地方行政全体を通じてますます大きくなっている。」と示されている。

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	R4年度 (実績)	R5年度 (予定・見込)	R6年度 (予定・見込)	R7年度 (予定・見込)	R8年度 (予定・見込)
		学校支援ボランティア派遣延べ人数	人	907	910	910	910
	出前講座参加者数	人	206	210	210	210	210

投入コスト	全体計画		R4年度 (決算額：千円)	R5年度 (予算額：千円)	R6年度 (計画額：千円)	R7年度 (計画額：千円)	R8年度 (計画額：千円)
	事業経費	学校支援ボランティア 謝礼		600	600	600	600
	学校支援ボランティア 損害保険料		72	72	72	72	72
	かしま子ども大学 謝礼		92	148	148	148	148
	かしま子ども大学 消耗品費		17	34	34	34	34
	かしま子ども大学 損害保険料		36	65	65	65	65
	合計		817	919	919	919	919
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(郷土かるた)						
	一般財源		817	919	919	919	919
従事職員数	正規職員(フルタイム勤務者)		3	3	3	3	3
	その他職員(再任用(短), 嘱託職員等)		1	1	1	1	1

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標		成果に関する指標		事業実施に直接関連する指標		成果に関する指標		執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価		個別事業実績評価			
	事業実施に直接関連する指標		成果に関する指標		事業実施に直接関連する指標		成果に関する指標		事業実施に直接関連する指標		成果に関する指標		執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価		個別事業実績評価	
①学校支援ボランティア制度 【比率: 40%】	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営や学校が必要とする教育活動(国語の読み聞かせや社会の地域探検の引率等)について、地域の方をボランティアとして派遣する学校支援ボランティア制度を構築し、学校の求めと地域の力を結びつけ、より効果的な学校支援を行う。</li> <li>地域ボランティアにとっても、学校支援活動を通じて、生涯学習や自己実現、生きがいづくり等の相乗効果を図る。</li> </ul>		学校支援ボランティア派遣延べ人数		<ul style="list-style-type: none"> <li>各小中学校区にある公民館を中心に、ボランティアを募集した。</li> <li>登録人数240人</li> </ul>		評価: B		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校支援ボランティアとして、学校の花壇整備や書道、裁縫学習の支援等に従事した延べ人数は907人。</li> </ul>		評価: A		コロナによる規制が徐々に緩和された中で、令和4年度には派遣人数629人から907人と増加した。		個別事業実績評価点: 35.8 【課題】 市内12小学校の利用状況にばらつきがあるため、引き続き学校に対して当該制度の周知を行い、更なる活用を図っていく。	
②まちづくり出前講座 【比率: 40%】	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会やサークルからの要望に応じて、学習会などへ職員が出向き、市の業務に関する説明や職務上習得した知識、技術などを提供する。</li> <li>受講者が身の回りの問題を意識し、学ぶことで生涯学習活動の第一歩となり、更なる生涯学習の振興に期待ができる。</li> </ul>		まちづくり出前講座参加者数		暮らしや健康、防災等の12分野、58の講座をメニュー化し、公民館等でチラシを配布した。		評価: B		消費者トラブルや環境問題関連をはじめとする講座を17回実施し、206人の参加があった。		評価: A		コロナ禍の影響により利用状況は低調であったものの、令和4年度には講座回数6回から17回、参加人数は180人から206人と増加した。		個別事業実績評価点: 31.6 【課題】 市民のニーズを把握し講座メニューを見直しながら、出前講座を活用する機会を増やせるようにしていく。	
③かしま子ども大学 【比率: 20%】	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育の枠から飛び出し、学びの体験を提供する「かしま子ども大学」では、鹿嶋に縁のある地域人材(企業やNPO等)を外部講師として迎え、講義を行う。</li> <li>子どもの好奇心や疑問に答えることで、講師と子どもたちが学び合い、新たな気付きや活動への動機付けにつながるようになっていくことに期待できる。</li> </ul>		かしま子ども大学参加者数		気象やドローン、学校建設現場等、子どもたちの知的好奇心を刺激し、学ぶ楽しさを感じられる講義を行い、講師と学びあうことができた。		評価: A		市内小学校5、6年生を対象にし、24人の参加があった。		評価: B		<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが興味を抱きそうなテーマを設定して、講師の選定を行った。</li> <li>令和4年度は「うみだす・つくりだす」として、風力発電や建設、世界の楽器等、様々なジャンルに見識を広げられる講義メニューとした。</li> </ul>		個別事業実績評価点: 15.1 【課題】 小学校高学年を対象にし、参加者や保護者、講師にも好評であり、小学校中学年にも対象を広げるよう要望があり、検討していく。	

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。			合計点数	82.5	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	上記事業を通じて、地域のつながり・絆を強化するとともに、生涯学習活動の充実を図り、地域住民が相互に学び合う機会を創出することができた。							
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	充実	理由	地域課題、人材の育成や地域の活力向上に応えられるよう社会教育の推進が求められている中、上記事業等により学び合い、地域づくりにつながる機会を提供していくことが必要である。					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校支援ボランティアについては、小学校毎にバランスのよい利用状況を目指す。</li> <li>まちづくり出前講座について、活用する機会を増やせるようにしていく。</li> <li>かしま子ども大学について、小学校中学年への対象拡大を検討する。</li> </ul>							
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校支援ボランティアについては、再度小学校に説明し制度の周知を図る。</li> <li>まちづくり出前講座は、市民のニーズを把握し講座メニューを見直しながら、事業を展開する。</li> <li>令和5年度のかしま子ども大学については、小学校3、4年生を対象にしたプレ大学を実施する予定。</li> </ul>							

令和5年度教育行政評価シート（令和4年度事業自己評価）

NO. 15-②

主要事業名	社会教育の推進					作成日	R5.5.19
						担当課名	中央公民館
						担当者名	出津 早苗
事業の性質	法定受託 事務		自治事務 (義務)		自治事務 (任意)	市民サービス	管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定	建設事業	その他
						年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		②第四次鹿嶋市総合計画における位置づけ	
基本方針	4 様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上	基本目標	1 人生100年をあざやかに「鹿嶋」で生きる
体系項目	(1) 社会教育の充実と多様で主体的な生涯学習活動の推進	基本政策	2 共に学び成長しながら生きる
個別施策	① 学習に取り組める場と学習機会の充実	基本施策	2 豊かな鹿嶋文化を共に創り育む
根拠法令等	教育基本法, 社会教育法		

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	公民館は、「教育基本法」や「社会教育法」, 「公民館の設置及び運営に関する基準」に基づき, 講座の開設や講習会等の開催を行う方法などにより, 多様な学習機会の提供に努めることが求められている。公民館における学びを通して「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の循環を生み, 地域の防災力の向上や地域福祉, 持続的な地域コミュニティを支える基盤としても期待される。
目的(事業の目指すところ)	鹿嶋市は, 小学校区を基本とする身近な地域ごとに公民館を整備し, 住民の学習活動や市民活動に貸し出しをするとともに, 「住民主体, 行政は積極的支援」を基本とした地域活動を推進するとともに, 幅広い地域課題の解決に向けた学習機会の提供に努める。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民カレッジ(定期講座)の開催</li> <li>社会教育施設(公民館)の貸館業務</li> <li>市民センター祭「て〜ら祭」</li> </ul>
国・県・他自治体の動向, 又は市民, その他の意見等	平成30年に中央教育審議会から出された答申により, 公民館は, 地域の学習拠点としての役割に加えて, 地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割, 地域の防災拠点としての機能が期待されると明言されるなど, 社会教育施設の機能強化が求められている。

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	R4年度 (実績)	R5年度 (予定・見込)	R6年度 (予定・見込)	R7年度 (予定・見込)	R8年度 (予定・見込)
		公民館利用者数	人	215,152	250,000	251,000	252,000
	て〜ら祭来場者数	人	2,500	3,000	3,000	3,000	3,000

投入コスト	全体計画		R4年度 (決算額:千円)	R5年度 (予算額:千円)	R6年度 (計画額:千円)	R7年度 (計画額:千円)	R8年度 (計画額:千円)
	事業経費	市民カレッジ講師謝礼		55	60	60	60
	第16回て〜ら祭運営委託		450	450	450	450	450
	合計		505	510	510	510	510
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金)						
	一般財源		505	510	510	510	510
従事職員数	正規職員(フルタイム勤務者)		7	7	7	7	7
	その他職員(再任用(短), 嘱託職員等)		5	4	5	5	5

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①市民力レッジ(定期講座)の開催 【比率: 30%】	市民の実生活に即した定期講座を開催する。	令和4年度は「SDGs(持続可能な開発目標)」をテーマに取り入れた講座を年5回開催する。	◆第1回「製鉄所の見学を通してSDGsを学ぼう!」◆第2回「鹿嶋の神々 豆知識〜古事記と雅楽の楽しいおはなし〜」◆第3回「基礎から始めるクラフトバンド」◆第4回「くらしに役立つ睡眠と健康の知恵袋講座」◆第5回「海洋プラスチックごみでコースター作り〜SDGsと鹿嶋の海ワークショップ〜」 評価: B	◆第1回→8/6(土) 25人 8/18(木) 27人 ◆第2回→8/27(土) 44人 ◆第3回→9/17(土),9/24(土), 10/1(土),10/8(土) 11人 ◆第4回→1/21(土) 31人 ◆第5回→3/4(土) 29人 評価: B	今年度は、鹿嶋市の産業や歴史,自然の学習を通してSDGsを考えていただく機会とした。 評価: B	個別事業実績評価点: 19.5 【課題】 今後も地域住民が学びたい内容や,現代社会が抱える諸問題などの把握に努め,市民の実生活に即した講座内容に反映していく。また,若い世代の参加促進を図るため,親子向け講座を引き続き開催する。
②貸館業務 【比率: 30%】	市民の学習活動や地域づくり活動等の拠点として,公民館施設の利用促進を行う。	利用者が快適な学習環境の中で利用できるよう,施設の適正な維持・管理に努める。	(公民館室数) 鹿島 19室, 高松 7室 平井 6室, 豊津 6室 豊郷 4室, 波野 4室 鉢形 6室, 三笠 7室 大野 17室, はまなす 5室 中央 19室 評価: B	(公民館別年間利用者数) 鹿島 11,108人, 高松 12,347人 平井 11,479人, 豊津 9,303人 豊郷 10,724人, 波野 13,119人 鉢形 8,655人, 三笠 17,208人 はまなす 23,746人 大野 38,187人, 中央 60,276人 (公民館利用者総数) R4年度 215,152人 評価: A	令和4年6月まで施設利用制限(収容人数の半分)を実施していたが,7月から制限を解除し,感染対策を行いながら,収容可能人数での使用を可能とした。 評価: A	個別事業実績評価点: 26.9 【課題】 新型コロナウイルス感染症の流行前には及ばないが,かしま灘学習塾をはじめ,様々な団体や個人が公民館での学習活動等を再開した。引き続き,各種事業を通じて公民館の利用促進を図っていく。
③第16回て〜ら祭 【比率: 40%】	まちづくり市民センターまちづくり「第16回て〜ら祭」の開催 【会期】11月5日(土)〜6日(日) 【会場】まちづくり市民センター	・て〜ら祭を開催し,来場者数2,000人(1日1,000人)を目指す。 ・市民センター利用団体等の参画を図り,事業内容の充実を図る。	第16回て〜ら祭 ・実行委員会 2回開催 ・全体(参加団体)会議1回 ・広報周知活動 市民センターホームページ/市民センター広報紙(全戸配布)/かなメール/LINE/ツイッター/インスタ(市民センター) 評価: B	第16回て〜ら祭を2日間開催 ・来場者数:約2,500人 ・事業内容等 ＜屋外＞野外ステージ,模擬店 ＜屋内＞市民センター利用団体等の活動紹介や作品展など 評価: A	新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら,対面でのステージ発表や模擬店等の再開に努めた。 評価: A	個別事業実績評価点: 35.8 【課題】 感染予防対策を講じながらの開催であったが,市民センター利用団体等の活動発表・交流の機会を提供することができた。今後もコロナ禍前のノウハウを参考に事業内容や運営方法を見直す必要がある。

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に,事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ,個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	82.2	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	公民館における新型コロナウイルス感染予防対策を講じるとともに適正な維持管理を行った。公民館主催の定期講座やイベントについても,感染予防対策を講じながら開催し,多くの人々が笑顔で集い,ふれあい,学び合う機会を提供することができた。					
充実,現状維持,見直し,休止・廃止	現状維持	理由	公民館は教育基本法や社会教育法に基づく施設で,目的や事業が法律で定められているため。			
課題	若い世代の公民館利用やイベント参加が少ないため,若い人が関心を持ち,参加し易い事業内容を検討していく必要がある。					
改善策	若い世代が公民館に関心を持ち,公民館事業に参加するよう,子どもを切り口に親子で参加できる講座・事業を引き続き企画・実施する。					

主要事業名	放課後子ども総合プランの推進						作成日	R5.5.12
							担当課名	社会教育課
							担当者名	野村 優
事業の性質	法定受託 事務		自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	○	市民サービス	管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		建設事業	その他
							年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ			②第四次鹿嶋市総合計画における位置づけ		
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上	基本目標	1	人生100年をあざやかに「鹿嶋」で生きる
体系項目	(2)	学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成	基本政策	1	多様性を理解し共に生きる
個別施策	②	子どもたちの居場所づくり事業の実施	基本施策	1	まちぐるみで子育てを応援する

根拠法令等	児童福祉法、放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準、鹿嶋市放課後子ども総合プラン運営委員会設置要綱、鹿嶋市放課後児童クラブ設置条例
-------	--

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	文部科学省及び厚生労働省による連携のもと、平成19年度から総合的な放課後児童対策として「放課後子どもプラン事業」が開始した。平成26年度には「放課後子ども総合プラン」に改められ、両事業を一体的に又は連携して実施することを目標に計画的な整備を進めてきた。その後、女性就業率の上昇等により、更なる共働き家庭等の児童数増加が見込まれており、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携を前提とした追加整備が不可欠となることから、平成30年度に「新・放課後子ども総合プラン」が策定された。
------------	---

目的（事業の目指すところ）	次代を担う人材を育成するため、すべての児童を対象に、体験活動・交流活動等を実施する放課後子ども教室と、留守家庭の児童を対象に生活の場を提供する放課後児童クラブを一体的又は連携して実施する総合的な放課後対策を目的とする。
---------------	---

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>『鹿嶋市放課後子ども総合プラン運営委員会』を開催し、地域及び学校の情報を共有するとともに、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の方針について協議する。</li> <li>余裕教室の活用及び学校施設の一時的な利用に向けて各小学校との協議を進める。</li> <li>各事業における参加児童の安全確保のため、参加児童の状況を把握し、指導員の配置等関係機関と協議する。</li> <li>放課後子ども教室において、多様な学習、体験プログラムの充実を図る。</li> </ul>
------------	--

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	<p>&lt;国の動向&gt; 全ての児童の安全・安心な居場所を確保するため、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の計画的な整備等を進めることを推進している。</p> <p>&lt;県の動向&gt; 地域の実情に応じた研修計画の策定、教育委員会と福祉部局の具体的な連携に関する方策及び特別な配慮を必要とする児童への対応に関する方策を検討している。</p>
--------------------------	--

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	R4年度 (実績)	R5年度 (予定・見込)	R6年度 (予定・見込)	R7年度 (予定・見込)	R8年度 (予定・見込)
	放課後児童クラブ利用者数 (待機児童数)	人	1,016 (0)	1,153 (0)	1,153 (0)	1,153 (0)	1,153 (0)
放課後子ども教室（平日） 利用者数	人	279	242	242	242	242	

投入コスト	全体計画		R4年度 (決算額：千円)	R5年度 (予算額：千円)	R6年度 (計画額：千円)	R7年度 (計画額：千円)	R8年度 (計画額：千円)
	事業経費	放課後児童クラブ運営委託料 (運営委託料のうち人件費)	207,228 175,496	212,420 177,901	212,420 177,901	212,420 177,901	212,420 177,901
	放課後児童クラブ運営委託料以外の経費	30,237	10,278	10,278	10,278	10,278	
	放課後子ども教室・平日運営委託料	10,780	11,800	11,800	11,800	11,800	
	放課後子ども教室・平日運営委託料以外の経費	340	435	435	435	435	
	放課後子ども教室・休日運営委託料	1,379	1,472	1,472	1,472	1,472	
	合計	249,964	236,405	236,405	236,405	236,405	
財源内訳	国県支出金	114,334	115,053	115,053	115,053	115,053	
	地方債						
	その他(参加者負担金)	47,288	53,291	53,291	53,291	53,291	
	一般財源	88,342	68,061	68,061	68,061	68,061	
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）	2	2	2	2	2	
	その他職員（再任用(短)、嘱託職員等）	2	2	2	2	2	

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①放課後子ども教室(平日)  【比率: 20%】	放課後に学習、創作活動及び他学年との交流などを通して、社会性及び知力の向上を図ること、また、下校時の安全を確保するため、小学校1～3年生を対象に放課後子ども教室(平日)を開催する。 ・放課後子ども教室(平日) 10教室	対象児童を高学年が下校する時刻まで、または保護者がお迎えにくるまで預かることで、安全・安心な居場所を確保するだけでなく、安全な下校を実現する。 ・運営委託契約 NPO法人 2社 社会福祉法人 3社	放課後児童クラブの運営を委託している5団体と放課後子ども教室(平日)の運営についても委託し、一体的又は連携して事業を実施した。 ・開催日数(10教室平均) 137日	新型コロナウイルス感染症を理由に退会する児童が多数いたものの、放課後子ども教室(平日)の開催により、低学年のみで下校する児童を減少させることができた。 ・利用者数 279人 (前年度 280人) (前年度比 99.6%) ・市内小学校低学年の放課後子ども教室利用割合 17%	放課後子ども教室(平日)の運営を円滑にするため、委託先及び学校との連携に努めた。また、各教室を月に2回訪問し、運営状況を確認した。	個別事業実績評価点: 13.0 [課題] 未実施であった2校(三笠小学校、大同東小学校)のうち、大同東小学校については、令和5年度からの開設が決定したが、三笠小学校については、依然として場所の確保が課題となっている。
②放課後子ども教室(休日)  【比率: 20%】	小学校1～6年生を対象に、地域の方の参画を得て交流活動等の機会を提供することで、地域との関わりの中から社会性を得ること、また、地域全体で子どもを育てていくことを目的に放課後子ども教室(休日)を実施する。 ・放課後子ども教室(休日) 10地区	様々な体験活動や地域住民との交流活動により、児童の社会性、自主性及び創造性等の豊かな人間性を育成するとともに、地域コミュニティーの充実を図る。 ・運営委託契約 まちづくり委員会 10地区	放課後子ども教室(休日)の運営については、地域と密接な関係にある各地区のまちづくり委員会に委託し、事業を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、内容の変更が必要になった事業もあるものの、回数減らすことなく事業を実施した。 ・開催回数 69回 (前年度 66回) (前年度比 104.5%)	放課後子ども教室(休日)では、地域の歴史に関する学習、伝統文化の体験及び各地域のお祭りへの参加などをおこなった。保護者参加型にすることで、児童、保護者及び地域住民とのつながりづくり、地域全体で子どもを育てるという意識形成につながっている。 ・参加者数 1,444人 (前年度 1,303人) (前年度比 110.8%)	各地区公民館と連携し、SNSを活用した広報活動により、事業の周知をはかった。新型コロナウイルス感染症の5類移行を見据え、事業内容の幅を広げるため、県や他課で取り組んでいる事業の活用について委託先と協議した。 ・県「伝統文化体験会」 ・住友生命「スマセイアフタースクールプロジェクト」	個別事業実績評価点: 13.0 [課題] 開催回数について、多いところでは年12回、少ないところでは年3回と差が出てしまっている。事業を実施するための人員、人材の確保が課題となっている。
③放課後児童クラブ  【比率: 60%】	小学校の放課後や長期休業中に、保護者が子どもを安心して預けられる適切な居場所づくりを確保するための環境整備をおこなう。 ・設置する小学校 12校 ・設置クラブ 35クラブ	児童クラブの利用を希望するすべての児童の受け入れをおこない、利用児童の適切な遊びや生活の場を提供し、健全な育成を図る。 ・待機児童なし ・運営委託契約 NPO法人 2社 社会福祉法人 3社	小学校との連携により、放課後児童クラブで使用する教室を確保し、また、事業者との協議により受け入れ児童数の拡充をおこなった。これにより待機児童を発生させることなく事業を実施した。	放課後児童クラブの利用を希望するすべての児童の受け入れをおこない、留守家庭児童の安全・安心な居場所を提供し、また、そこの遊びや生活に関する活動を通じて、児童の健全育成をはかることができた。 ・定員 1,336人 (前年度 1,336人) (前年度比 100%) ・利用者数 1,016人 (前年度 999人) (前年度比 101.7%)	新型コロナウイルス感染症対策として、感染が拡大している時期については、日割り計算により、利用自粛を促し、放課後児童クラブで感染拡大をさせることなく運営することができた。また、特別な配慮が必要となる児童についても、児童クラブ受託事業者、福祉部局担当課及び放課後等テイクサービス事業者との連携により、受け入れをおこなった。	個別事業実績評価点: 60.0 [課題] 利用を希望する児童が増加する中、開設場所の確保が大きな課題となっている。普通教室の活用も検討しているものの、小学校及び事業者との協議がすすまない状況となっている。また、支援員等の高齢化もすすんでおり、担い手不足の解消も課題となっている。

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA～Cの区分により総合評価とする。	合計点数	86.0	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	「新・放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童クラブ事業と放課後子ども教室事業を実施した。放課後子ども教室事業(休日)については、SNS活用の効果により参加者が増加している状況である。また、放課後児童クラブについては、令和4年度においても待機児童を発生させることなく、利用を希望するすべての児童の受け入れをおこなった。特別な配慮が必要な児童の受け入れについても、関係機関との連携を密にし、居場所を確保することができた。両事業の推進により、児童の居場所づくり、多様な体験活動及び地域住民との交流活動など、総合的な放課後対策を実施した。					
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	充実	理由	年々増加する利用希望者に対応するためにも、放課後児童クラブにおける児童の受入体制の拡充を図る必要がある。また、地域住民間の関わりが希薄となってきているため、小学校以外における児童の安全な居場所づくりのため、放課後子ども教室の充実が必要となる。			
課題	放課後児童クラブについては、依然として開設場所や支援員等の確保が困難な状況である。また、放課後子ども教室についても人員の確保が大きな課題となっており、事業の拡充が困難となっている地区がある。					
改善策	開設場所の確保については、普通教室の活用も視野にいれ検討している。また、人員不足については、各地区公民館及びまちづくり委員会と連携し、気軽に応募していただけるような周知方法を検討している。					

主要事業名	地区公民館におけるまちづくり事業の充実					作成日	R5.5.19
						担当課名	中央公民館
						担当者名	出津 早苗
事業の性質	法定受託 事務		自治事務 (義務)		自治事務 (任意)	市民サービス	管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定	建設事業	その他
						年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ		②第四次鹿嶋市総合計画における位置づけ	
基本方針	4 様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上	基本目標	1 人生100年をあざやかに「鹿嶋」で生きる
体系項目	(2) 学校・公民館を核とした地域コミュニティの形成	基本政策	1 多様性を理解し共に生きる
個別施策	① まちづくり委員会活動の支援	基本施策	2 多様なライフスタイルを応援する
根拠法令等			

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	地域における公民館事業（地区まちづくり事業）を、各地区まちづくり委員会に委託することで、住民自らが企画・運営する住民主体の活動を推進しています。また、すべての地区まちづくり委員会で構成する「鹿嶋市まちづくり連絡協議会」において、各地区委員相互の情報交換や研修会等を開催し、それぞれの活動の活性化と充実を図ります。
目的（事業の目指すところ）	市民一人ひとりが主体的な学習活動を展開し、学びの成果を生かした地域活動・まちづくり活動が活発に行われる持続可能な地域の形成を目指します。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の魅力や資源を活用した新たな取り組み（モデル事業）の実践</li> <li>・10地区公民館を拠点とした、地域住民による学習活動・交流活動・まちづくり活動等の促進</li> <li>・地区まちづくり委員及び公民館職員等の研修会・情報交換の開催</li> </ul>
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	<p>○人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（中教審）</p> <p>＜地域における社会教育の目指すもの＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域における社会教育の意義と果たすべき役割 ～「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくり～</li> <li>2 新たな社会教育の方向性～開かれ、つながる社会教育の実現～</li> </ol> <p>＜「社会教育」を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりに向けた具体的な方策＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 学びへの参加のきっかけづくりの推進</li> <li>2 多様な主体との連携・協働の推進</li> <li>3 多様な人材の幅広い活躍の促進</li> <li>4 社会教育の基盤整備と多様な資金調達手法の活用等</li> </ol>

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	R4年度 (実績)	R5年度 (予定・見込)	R6年度 (予定・見込)	R7年度 (予定・見込)	R8年度 (予定・見込)
		地区まちづくり委員数	人	830	830	830	830
	研修会等の機会	回	39	42	42	42	42

全体計画		R4年度 (決算額：千円)	R5年度 (予算額：千円)	R6年度 (計画額：千円)	R7年度 (計画額：千円)	R8年度 (計画額：千円)
投入コスト	地区まちづくり事業委託	10,040	9,888	10,088	10,088	10,088
	まちづくり支援事業委託	803	1,000	800	800	800
	・まちづくり研修会等事業	(130)	(130)	(130)	(130)	(130)
	・まちづくり活動調査・研究事業	(204)	(400)	(250)	(250)	(250)
	・特色ある地域づくり事業	(300)	(350)	(300)	(300)	(300)
	・需用費	(130)	(80)	(80)	(80)	(80)
	・食糧費	(39)	(40)	(40)	(40)	(40)
	まちづくり市民大会事業委託	450	450	450	450	450
	合計	11,293	11,338	11,338	11,338	11,338
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他(参加者負担金)					
	一般財源	11,293	11,338	11,338	11,338	11,338
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）	7	7	7	7	7
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）	5	4	5	5	5

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①まちづくり事業(研修会、講座、市民大会)の開催と地域コミュニティプラン学習会の開催  【比率： 60%】	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり研修会、まちづくり講座等での学びの成果を発表するとともに、多くの市民と情報を共有し、今後の市民活動の方向性を示すための研修・大会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり連絡協議会の設置。</li> <li>まちづくり活動関係者及び公民館職員の研修会の開催。</li> <li>地域の現状や課題を取り上げ、解決を図るためにまちづくり講座を開催。</li> <li>まちづくり市民大会の開催。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり連絡協議会役員会の開催→各地区まちづくり委員会相互の情報交換及び全体事業の企画検討を行った。</li> <li>まちづくり研修会の開催→地区まちづくり委員及び公民館職員の研修を行った。</li> <li>第19回まちづくり市民大会→地域活動実践者を対象に市民表彰、活動発表、講演等を行った。</li> </ul> <p>評価： B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり連絡協議会役員会→年4回(5.9,12,3月)メンバー：地区まちづくり委員会委員長10人、公民館長11人</li> <li>まちづくり研修会→6月4日(土)参加人数66人</li> <li>第19回まちづくり市民大会→2月5日(日)参加人数190人</li> </ul> <p>評価： A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの地区で作成したコミュニティプランを活用し、「公民館を核にした共創のまちづくり」について考える機会とした。</li> </ul> <p>評価： A</p>	<p>個別事業実績評価点： 53.7 [課題]</p> <p>コミュニティプランを活用した「公民館を核にした共創のまちづくり」を推進するため、引き続き地域活動の参考となる社会変化に応じた研修会・研究集会等の内容の充実を図っていく必要がある。</p>
②公民館事業(公民館まつり、住民体育祭等)の開催  【比率： 10%】	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区公民館を拠点として、学習活動をはじめ、住民間の交流、地域づくりに向けた様々な活動を推進する。</li> <li>地区住民が主体となった地区まちづくり活動の持続可能な体制づくりを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民が主体となってまちづくり事業の企画・運営に必要な会議、研修会の開催。</li> <li>地域の課題解決に向けた取り組み、地域の絆づくり事業、公益的なまちづくり事業の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区まちづくり委員会と委託契約を締結。</li> <li>各地区まちづくり委員会本部役員会、専門部会議を開催。</li> <li>公民館まつりなど、公益的なまちづくり事業を実施。</li> <li>まちづくりたよりを年4回程度発行。</li> </ul> <p>評価： B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の実情、特色を生かした地域づくり事業が行われた。</li> <li>地域住民の日頃の活動成果を生かすための場を提供することができた。</li> </ul> <p>評価： A</p>	<p>コロナ禍で地域の絆づくりを目的とした様々な事業や講座などが中止や延期となったが、事業内容を工夫するなど感染予防対策を講じながら開催に努めた。</p> <p>評価： A</p>	<p>個別事業実績評価点： 9.0 [課題]</p> <p>コミュニティの希薄化、地域役員等の担い手不足などの地域課題やニーズに対応した活動を、地域住民や各種団体等と連携して取り組む必要がある。</p>
③特色ある地域づくり事業(モデル事業)の実施  【比率： 10%】	<p>各まちづくり委員会において、地域の資源を活用し、魅力ある地域づくりの新たな取り組みを、モデル事業として3年間実践する。</p>	<p>地域の特色を生かした取り組みの実施。(2地区)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>R2年度～コミュニティプラン推進モデル事業(波野・豊郷地区)</li> <li>R3年度～コミュニティプラン推進モデル事業(豊郷地区)</li> </ul> <p>評価： B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>R2波野：「波野の宝スポットマップ」の修正・「宝の説明看板」の設置</li> <li>R2豊郷：高齢者にやさしいまちづくり事業</li> <li>R3豊郷：ゆたかな郷推進事業(歴史再発見による地域の絆づくり)等</li> </ul> <p>評価： B</p>	<p>地域の魅力発見・課題解決に向け、学校や様々な市民活動団体と連携した活動を実践することが出来た。</p> <p>評価： A</p>	<p>個別事業実績評価点： 7.6 [課題]</p> <p>委員会(地域)自らが、地域実情に沿った新たな事業を企画・運営・評価する体制につながった。引き続き、他地域へ普及する働きかけが必要である。</p>
④公民館職員の研修・情報交換等の開催  【比率： 20%】	<p>住民による社会教育活動や団体活動等の充実を図るため、公民館業務に携わる職員(館長・支援員・公民館主事)の資質向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館長会議の開催</li> <li>地域活動支援員会議の開催</li> <li>公民館主事研修会の開催</li> <li>茨城県主催研修会への参加</li> <li>全国公民館研究集会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館長会議7回</li> <li>地域活動支援員会議11回</li> <li>鹿嶋市立公民館職員全体研修会1回</li> <li>新任公民館主事研修会1回</li> <li>茨城県公民館・市民センター等職員研修(オンライン形式)</li> </ul> <p>評価： B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各会議、研修会を開催し、各地区で開催される地域活動等についての情報交換など連絡調整を図った。</li> <li>全国公民館研究集会で、豊郷公民館が事例発表を行った。</li> </ul> <p>評価： A</p>	<p>地域活動を支える公民館職員等のスキル向上に取り組むことが出来た。全国公民館研究集会で発表する機会につながった。</p> <p>評価： A</p>	<p>個別事業実績評価点： 17.9 [課題]</p> <p>令和2年度から公民館長及び公民館主事が会計年度任用職員に変わり、地域からの期待に応えられるよう、公民館職員としての更なるスキル向上が求められている。</p>

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

敷地借地

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	88.1	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍においても、人数制限をするなどしてまちづくり研修会等を開催することによって、住みよい地域づくりを推進していくためのコミュニティ活動の重要性を再確認し、活動全体の見える化とネットワーク型コミュニティの必要性について、情報を共有するための取り組みが行われた。</li> <li>各地区まちづくり委員会では、地域住民が主体的に地域づくりやまちづくり事業を実施し、地域コミュニティの形成、地域の連帯感を育む取り組みが行われた。</li> </ul>					
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	共創のまちづくりを推進し、まちづくり活動の充実を図るためには、継続した支援が必要である。あらためて安全・安心な暮らしと住みよい地域づくりを推進していくために、各地区の魅力や課題を点検し、持続可能な地域づくりを進めていく必要がある。			
課題	コミュニティプランを推進する市民組織体制と活動のあり方、市民の学習と活動を支援する公民館の役割等の構築に向け、基本的な方針、考え方をまとめていく必要がある。					
改善策	コミュニティプランを活用し、社会の変化に対応した地域コミュニティの創造を目指す「公民館を核にした共創のまちづくり」を推進するため、コミュニティプランを推進する市民組織体制と活動のあり方、市民の学習と活動を支援する公民館の役割等について、引き続き検討していく。					



令和5年度教育行政評価シート（令和4年度事業自己評価）

NO. 18-①

主要事業名	文化芸術の振興						作成日	R5.5.15
							担当課名	社会教育課
							担当者名	金島 慎太郎
事業の性質	法定受託 事務		自治事務 (義務)	○	自治事務 (任意)	○	市民サービス	管理経費
							建設事業	その他
事業期間	単年度	○	年度繰返し		期間限定		年度から	年度まで

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ				②第四次鹿嶋市総合計画における位置づけ			
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上		基本目標	1	人生100年をあざやかに「鹿嶋」で生きる	
体系項目	(3)	生きがいづくりへとつながる文化的活動の促進		基本政策	2	共に学び成長しながら生きる	
個別施策	②	生涯学習活動団体の支援・育成		基本施策	2	豊かな鹿嶋文化を共に創り育む	
根拠法令等	鹿嶋市社会教育推進計画						

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	文化芸術は、人々が心豊かな生活を実現していく上で不可欠なもので、何物にも代え難い心のよりどころである。市民の文化芸術活動をさらに活性化するためには、市民一人ひとりが創造力を発揮し文化芸術を楽しめる環境を整え、継続的に支援していくことが求められている。
目的（事業の目指すところ）	地域に根付いた祭りや踊り、文化財等に市民が触れることができる機会を創出することで、文化芸術の振興を図る。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内各施設（勤労文化会館、各公民館など）での文化芸術に関わる事業について、新型コロナウイルス感染症の対策を十分に行い、事業を実施していく。</li> <li>文化芸術を振興する団体（文化協会、文化スポーツ振興事業団など）への支援を行い、連携を図りながら、文化芸術に関わる事業を展開する。</li> </ul>
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	文化庁では、次代を担う子どもたちに対して、華道、茶道などの伝統文化等を体験できる機会を提供することにより、伝統文化等を継承・発展させるとともに、豊かな人間性の涵養を図ることを目的に伝統文化親子教室事業を実施している。また、当該事業では、コロナ禍において子どもたちの様々な活動機会が減少する中、地方公共団体や関係団体が一体となって、より多くの子どもたちに対して伝統文化等の体験機会を提供することも目的としている。

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	R4年度 (実績)	R5年度 (予定・見込)	R6年度 (予定・見込)	R7年度 (予定・見込)	R8年度 (予定・見込)
		鹿嶋市郷土かるたの累計販売数	個	297	310	320	330
	伝統文化親子教室参加者数	人	542	600	600	600	600

投入コスト	全体計画		R4年度 (決算額：千円)	R5年度 (予算額：千円)	R6年度 (計画額：千円)	R7年度 (計画額：千円)	R8年度 (計画額：千円)
	事業経費	文化芸術普及活動への謝礼		80	100	100	100
	文化振興事業補助金（文化協会）		354	400	400	400	400
	文スポ事業団運営補助金		24,383	23,558	23,558	23,558	23,558
	文スポ事業団文化事業補助金		1,500	3,000	3,000	3,000	3,000
	伝統行事親子体験事業委託		2,218	2,391	2,391	2,391	2,391
	合計		28,535	29,449	29,449	29,449	29,449
財源内訳	国県支出金		2,218	2,391	2,391	2,391	2,391
	地方債						
	その他（郷土かるた）		25	55	55	55	55
	一般財源		26,292	27,003	27,003	27,003	27,003
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		3	3	3	3	3
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		1	1	1	1	1

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①文化芸術の普及活動  【比率: 40%】	鹿嶋市郷土かるたをはじめとした文化財の紹介や伝統文化親子教室の実施を通して、市民に対し鹿嶋市の伝統文化に触れる機会を創出するとともに、市民音頭の普及も図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋市郷土かるたの累計販売数</li> <li>伝統文化親子教室参加者数</li> <li>市民音頭普及活動数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋市郷土かるたを販売し、市民への文化財の周知を実施した。</li> <li>伝統文化親子教室として華道教室6回、茶道教室3回、陶芸教室を3回実施し、伝統文化に触れる機会を設けた。</li> <li>市民音頭を披露するイベントは実施できなかったものの、介護老人保健施設での普及活動を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋市郷土かるたは社会教育課、中央公民館、大野公民館の窓口で販売し、累計販売数は297個。R4年度は23個販売した。</li> <li>伝統文化親子教室には延べ人数で華道教室に親子112組233名、茶道教室に親子74組148人、陶芸教室に親子53組111人と計492人が参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統文化親子教室では使用した道具を都度消毒するなど、各事業は感染症対策を十分に行い実施した。</li> <li>伝統文化親子教室は募集定員を大きく上回る応募があった。講師の厚意で定員を増やしたが、それでも応募数を上回ったため抽選を行い、体験教室を実施した。</li> </ul>	個別事業実績評価点: 40.0 [課題] <ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋市郷土かるたについて、その周知や販売を推進するための方策を検討していく。</li> <li>伝統文化体験に関するニーズがあることが判明したことから、継続できるように進めていく。</li> <li>コロナ禍での市民音頭の普及活動については、イベント以外の普及を模索していく。</li> </ul>
②歴史文化に触れる機会の創出  【比率: 30%】	文化財等に触れることで、鹿嶋市の文化財や伝統行事の価値を認識する機会を創出する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統行事親子体験事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統行事親子体験は、かつて地域で作られていた鹿島大助人形(回除け人形)の製作体験を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統行事親子体験事業では、大助人形作り体験に延べ人数で24組50人が参加した。</li> </ul>	大助人形に関するパネルの掲示や、自分自身で作成した大助人形を通して、本市の歴史に興味を持つとともに、郷土への誇りや愛着を育む機会を創出した。	個別事業実績評価点: 22.7 [課題] <ul style="list-style-type: none"> <li>市の文化財や伝統行事の価値を認識する機会を提供できる方法を検討する。</li> </ul>
③文化芸術振興団体の支援、育成  【比率: 30%】	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋市文化協会、鹿嶋市文化スポーツ振興事業団に対して、補助金を交付し、文化事業に対する支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿嶋市文化協会の事業の実施数</li> <li>鹿嶋市文化スポーツ振興事業団の文化事業数</li> </ul>	各団体への補助金の交付。適宜各団体との連絡調整を実施。各事業に伴う会議への出席。	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化協会事業数2</li> <li>文化スポーツ振興事業団文化事業数20</li> </ul>	各事業の実施にあたり、感染症対策について適宜協議し、対策を行った。	個別事業実績評価点: 19.5 [課題] <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナによる規制が緩和される中、文化事業をどのように実施していくか。また、新たな文化の担い手の育成についても検討していく。</li> </ul>

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。			合計点数	82.2	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	感染症対策を十分に行いながら、鹿嶋市郷土かるた、伝統文化親子教室や市民音頭を通して、市民に対し鹿嶋市の伝統文化に触れる機会を提供できた。さらに、大助人形製作体験を通して、市の文化財や伝統行事の価値を認識する機会を創出した。また、文化芸術振興団体への支援を行い、文化芸術の振興のために必要な施策の推進を図った。							
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	文化芸術、伝統文化に触れる機会が減っている中、郷土かるたや伝統文化親子教室等による機会提供が必要である。					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財や伝統等に触れる機会が著しく減少している中、市の文化財や伝統等の価値を認識するための機会を創出していく必要がある。</li> <li>市民音頭について、イベントのみによる普及活動は、コロナ禍では開催が難しくなることもあるため、別の方法も模索していく。</li> <li>文化芸術振興における新たな文化の担い手の育成についても検討していく。</li> </ul>							
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統文化体験に関するニーズがあることが判明したことから、引き続き、文化財や伝統文化に触れる機会を提供していく。</li> <li>市文化財やの伝統文化に触れる機会を提供しながら、新たな担い手の育成が可能となるよう事業を推進する。</li> </ul>							

令和5年度教育行政評価シート（令和4年度事業自己評価）

NO. 18-②

主要事業名	文化芸術の振興					作成日	R5.5.19
						担当課名	中央公民館
						担当者名	出津 早苗
事業の性質	法定受託 事務	自治事務 (義務)	自治事務 (任意)	市民サービス	管理経費	建設事業	その他
事業期間	○ 単年度	年度繰返し	期間限定	年度から	年度まで		

1 事業の位置づけ

①第Ⅱ期鹿嶋市教育振興基本計画における位置づけ			②第四次鹿嶋市総合計画における位置づけ		
基本方針	4	様々な学びを通じた地域づくりと地域の教育力の向上	基本目標	1	人生100年をあざやかに「鹿嶋」で生きる
体系項目	(3)	生きがいづくりにつながる文化的活動の促進	基本政策	2	共に学び成長しながら生きる
個別施策	①	芸術祭・市美術展等の発表の場の拡充	基本施策	2	豊かな鹿嶋文化を共に創り育む
根拠法令等					

2 事業概要 (Plan)

事務事業の概要・背景	コロナ禍でも、市民の日頃の芸術・文化創作活動の成果を発表する機会を提供するとともに、今後の創作意欲の醸成を図り、芸術・文化を身近に楽しむ機会とする。
目的（事業の目指すところ）	市民の芸術・文化活動に対する関心を高め、意欲的な創作活動を促し、地域文化を育む。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が気軽に多様な芸術・文化とふれ合い、また自分の創作作品を発表する機会の充実を図るとともに、文化活動をとおした市民間交流の場の提供に努める</li> <li>芸術・文化団体間の連携を図り、団体活動の活性化が図れるよう支援する。</li> </ul>
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	市民や関連団体と共創することで、更なる芸術・文化活動の充実を図るとともに、幅広い分野の文化活動を行うことができる施設の充実などが求められている。

3 数値目標と実績 (Do)

数値目標	目標内容	単位	R4年度 (実績)	R5年度 (予定・見込)	R6年度 (予定・見込)	R7年度 (予定・見込)	R8年度 (予定・見込)
		市美術展出品数	点	141	150	152	154
	鑑賞者数	人	615	620	622	624	626

投入コスト	全体計画		R4年度 (決算額：千円)	R5年度 (予算額：千円)	R6年度 (計画額：千円)	R7年度 (計画額：千円)	R8年度 (計画額：千円)
	事業経費	市美術展覧会		400	400	400	400
伝統文化親子教室事業（文化庁助成事業）			533	455	0	0	0
合計			933	855	400	400	400
財源内訳	国県支出金		557	455			
	地方債						
	その他(参加者負担金) 一般財源		376	400	400	400	400
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		7	7	7	7	7
	その他職員（再任用（短）、嘱託職員等）		5	4	5	5	5

4 具体的施策評価 (Check)

「事業実施に直接関連する指標」, 「成果に関する指標」, 「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A: 予定を上回る B: 概ね予定通り C: 予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標に係る評価 ※何を行ったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標	に係る評価	※どれだけの成果が上がったか		
①文化事業の開催 (市美術展覧会)  【比率： 60 %】	第25回鹿嶋市美術展覧会の開催【会期】6月28日(火)～7月3日(日) 【会場】まちづくり市民センター体育館 ・鹿嶋市文化協会と美術展覧会運営委託契約を締結する。 ・運営委員会, 実行委員会の設置 ・部門ごとに「最優秀賞」「優秀賞」「奨励賞」「会員賞」を表彰する。	・出品点数目標値180点 ・鑑賞者数目標値800人	・運営委員会 2回 ・実行委員会 2回 ・審査員会議 1回 ・展覧会の開催 (6/28～7/3) ・授賞式 (7/3)  ・広報周知活動 広報かしま/市民センターHP/市民センター広報紙/FMかしま/かしま ・申込者へ展覧会周知用ポストカード配布	・出品点数：141点 絵画：32点 書：38点 写真：24点 工芸：47点 ・鑑賞者数：615人 ・運営委員会委員8人, 実行委員39人の協力を得て事業を円滑に実施することができた。	展覧会の運営に際し, 芸術分野で活躍する文化協会会員による運営委員会, 実行委員会を組織し, 知識と経験を生かして作品の展示レイアウトや搬入・搬出に至るまで, 出品者と協力して円滑に運営することができたことは, 今後も継続すべき内容である。 本市の芸術文化の活性化を図るためにも市文化協会と引き続き連携していく必要がある。	個別事業実績評価点: 53.7 【課題】 コロナ禍のため, 感染対策をとって開催。 毎年課題となっている新しい作家の発掘・育成及び若い世代(高校生等)の出品については, 今後も幅広く周知し, 市内高等学校においては, 引き続き学校を訪問し参加協力を呼び掛けていく。
②伝統文化親子体験教室  【比率： 40 %】	市内在住の小学1年生から中学3年生の子と親を対象に「陶芸体験教室」を開催する。	・陶芸体験教室 全6回(3回×2会場) 親子10組(20名)×2会場  会場①鹿嶋勤労文化会館 会場②大野公民館	・陶芸体験教室 ①8月28日, 9月11日, 18日 鹿嶋勤労文化会館 ②8月27日, 9月10日, 17日 大野公民館 3回×2会場で計画・準備	・陶芸体験教室 ①鹿嶋勤労文化会館 8月28日作陶 9月11日色付け, 釉付け 9月18日窯出し 参加者 親子20名 ②大野公民館 8月27日作陶 9月10日色付け, 釉付け 9月17日窯出し 参加者 親子18名	芸術・文化事業を主管する社会教育課と連携し, 文化庁の「伝統文化親子教室事業」を活用した。	個別事業実績評価点: 30.2 【課題】 今後も, 新たな芸術活動の担い手の育成に向けた取り組みを行っていく必要がある。

5 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に, 事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0, B=0.65, C=0.4)を乗じ, 個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA～Cの区分により総合評価とする。		合計点数	83.9	A: 合計点数が80点超 B: 合計点数が50点超80点以下 C: 合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	市美術展覧会や各種芸術文化事業を開催し, 発表の場を創出することで, 市内芸術家の創作活動への意欲を増進させる機会となっている。また, 気軽に芸術文化を親しむ機会を創出することができている。継続的な課題(芸術文化活動を行う新たな人材)については, 市内高等学校へ訪問し, 引き続き市文化事業に関する情報提供(周知・広報活動)を行っており, 新たな人材の発掘・育成につながる取り組みを継続していく必要がある。						
充実, 現状維持, 見直し, 休止・廃止	現状維持	理由	市内で最大規模の市美術展覧会(審査を伴う展覧会)は, 市民が気軽に多様な芸術・文化に触れる大切な場となっている事, そして, 市内の芸術家の創作意欲を高める機会として, 実施内容を検討しながら審査を行う展覧会を開催するため。				
課題	市美術展覧会は, ゆとりと潤いを実感できる心豊かな市民生活を実現するために必要な事業だが, 継続的な課題として文化協会構成員の高齢化が進んでいる。事業の継続にあたり, 芸術文化活動を行う新しい人材の掘り起こしや後継者の育成など, 市の芸術文化活動の活性化を図る取り組みを市文化協会と芸術・文化事業を主管する社会教育課と連携して新たな取り組みを進めていく必要がある。						
改善策	若い世代への広報活動を継続していくとともに, 幅広い世代が芸術文化活動に参加できる取り組みを文化協会と検討していく。						